

白石町文化財調査報告書第2集

鳥ノ巢遺跡

平成4年3月

佐賀県白石町教育委員会

白石町文化財調査報告書第2集

鳥ノ巢遺跡

平成4年3月

佐賀県白石町教育委員会

序

本書は、農業基盤整備事業に伴い平成2年度に発掘調査を行った鳥ノ巣遺跡の報告書です。鳥ノ巣遺跡周辺では、今まで考古学的な調査がなされておらず、今回が初めての調査となりました。

発掘調査の結果、近世以降の遺構が検出され、少数ながら同時期の遺物も出土しています。これらの資料は、鳥ノ巣地区周辺の開発状況を具体的に示すものならず、白石町全体の歴史・文化を解明する上でも、貴重な情報を我々に与えてくれます。この報告書が郷土の文化財に対する認識と理解を深める啓蒙の一助となれば幸甚に存じます。

最後に、調査を実施するにあたり多大の御指導と御協力を賜りました関係各機関並びに地元の方々に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成4年3月

白石町教育委員会

教育長 吉 田 忠

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成2年度に実施した鳥ノ巣遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国庫補助を受け白石町教育委員会が実施した。
3. 遺構実測・遺構及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
4. 出土遺物の整理・復元は整理作業員が、実測・製図は調査員が行った。
5. 本書の執筆・編集は調査員が行った。

凡 例

1. 遺構番号については、各遺構毎に一連番号とし、SK=土壌、SD=溝の分類番号を表記した。
2. 挿図中に用いた方位は磁北を示す。
3. 図版の遺物写真は、挿図と対照できるよう（ ）内に挿図番号と挿図内遺物番号を併記した。

本文目次

I	序説	1
	1. 調査に至る経緯	1
	2. 調査体制	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の記録	5
	1. 遺構と遺物	5
	2. その他の遺物	6
IV	小結	6

挿図目次

Fig. 1	町内主要遺跡分布図 (1/2 5 0 0 0)	2
Fig. 2	調査区位置図 (1/2 0 0 0)	4
Fig. 3	SK018・SD001・その他の出土遺物実測図 (1/4)	5
Fig. 4	遺構配置図 (1/1 0 0)	7

図版目次

PL. 1	1. SD001 (南から)	2. SK001	3. SK012 (南から)
PL. 2	SK018・SD001・表土中出土遺物		

I 序 説

1. 調査に至る経緯

白石町では昭和51年度より農業整備事業が実施されているが、白石西第1工区においては平成2年度に当該地区周辺で事業が計画され、前年度に佐賀県文化課（現、文化財課）の協力を受け、水路計画部の確認調査を実施した。その結果、遺跡の存在が明らかになり、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良課・白石町教育委員会の四者で協議を重ねた結果、削平される水路部分については発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。

2. 調査体制

調 査 主 体 白石町教育委員会

事 務 局 教 育 長 吉田 忠

社会教育課長 副島 繁

社会教育係長 白石政行

社会教育係主事 武富 健・瀬戸口玲子

調 査 員 社会教育係主事 渡部俊哉

調 査 指 導 佐賀県教育委員会文化課（現、文化財課）

発掘作業員 大川内ハツ子・川崎トシエ・木村幸子・角ヤス・松本キミエ・溝口秀子・藤田昭子・木村ミツ子・諸岡鈴子・市原ユキエ・安武道子・石橋好江・池上由美子・西岡藤世・石橋ハツヨ・前田シヅヨ・野田ミツヨ・栗山きみえ・久富トモエ

整理作業員 内野千恵子・稲富敬子・淵上房枝・田中順子・山口登美子・副島武子・溝口則子

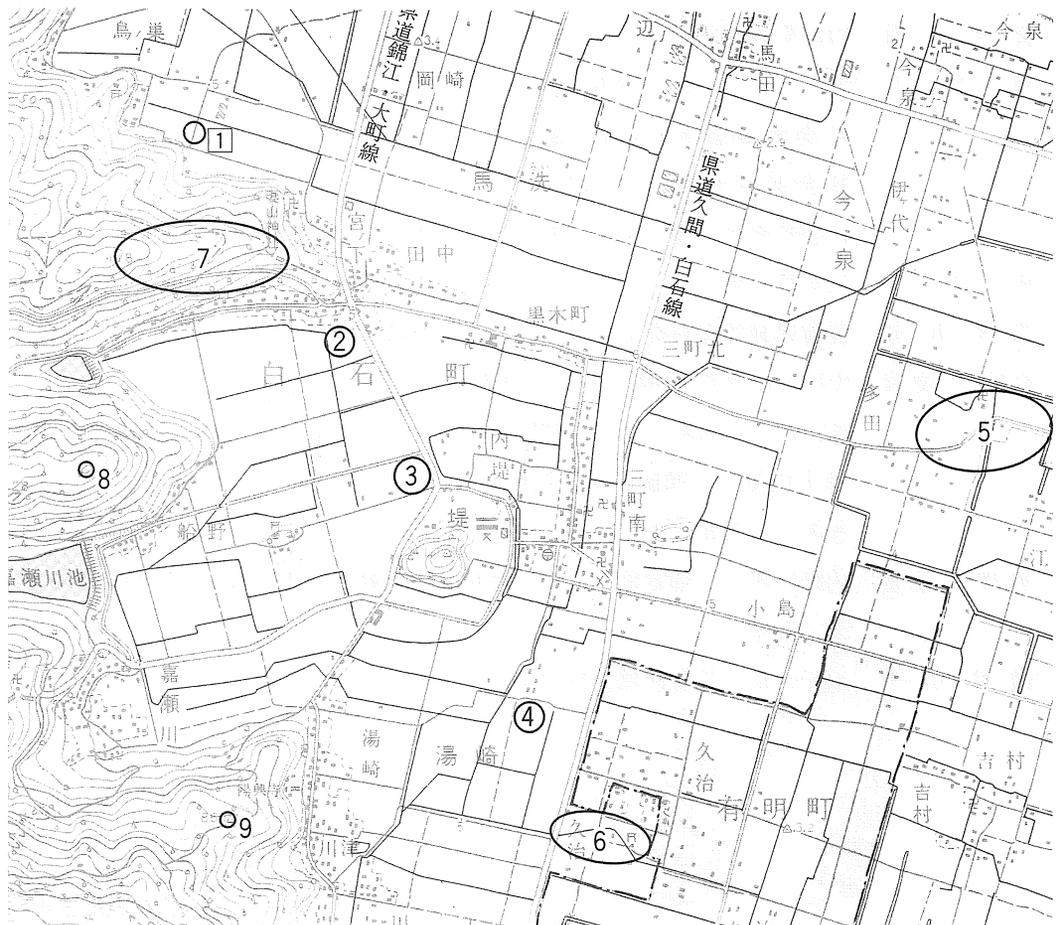
調 査 協 力 地元各位・佐賀県農林部・白石町土地改良課

II 遺跡の位置と環境

鳥ノ巢遺跡は、白石町大字大渡字三本松に所在する。北側は大町町との町境である六角川が大きく蛇行して東流し、西側は北方町との町境である小支脈が杵島山系から北側へ延びている。

遺跡のすぐ南側は、杵島山系から東へ派生する支脈が位置する。周辺の水田地帯は標高約3.6mを測る平坦地である。

町内の縄文時代の遺跡についてはほとんど知られておらず、船野遺跡において晩期の壺・浅鉢が少数検出されたのみで、明確な遺構はない。弥生時代の集落として中期を中心



- ① 鳥ノ巢遺跡 ② 妻山遺跡 ③ 船野遺跡 ④ 湯崎東遺跡 ⑤ 多田遺跡
 ⑥ 久治遺跡 ⑦ 妻山古墳群 ⑧ 船野山古墳群1号墳

Fig. 1 町内主要遺跡分布図(1/25000)

とする船野遺跡、後期を中心とする湯崎東遺跡^①があり、それぞれから当地方の軟弱地盤に対する地盤沈下対策を施した掘立柱建物が検出されている。詳細は不明だが、妻山遺跡も同時代の集落跡であると考えられる。当時の墓制を示すものとして、昭和36年の林道工事中に妻山丘陵で甕棺・箱式石棺・石蓋土壙墓各1基が発見されている^②。

古墳時代の集落跡として湯崎東遺跡が引き続き営まれ、陶邑産の甕が検出されている^③。後期を中心とする集落跡としては多田遺跡・久治遺跡が知られている^④。これらの各遺跡においては住居跡が検出されておらず、規模・内容等詳細の不明な点が多い。

杵島山系には多数の古墳が築造されているが、前期に遡る古墳の存在は知られていない。5世紀代の首長墓として、全長約40mの前方後円墳を中心とし4基の小円墳を伴う湯崎古墳群がある。佐賀県下の前方後円墳分布のほぼ西限に当たる位置を占める点など、重要な古墳である。その後続く首長墓として、直径約40mの円墳で、単室両袖式横穴式石室内包する船野山古墳群1号墳（通称、かぶと塚）がある。昭和48年の県文化課による石室内調査により鉄刀・鉄鏃・短甲等が出土した。線刻のある円筒埴輪片が採集されており、5世紀末の築造と考えられる^⑤。後期になると杵島山系の各支脈に群集墳が築造されたが、昭和37年以降の蜜柑園造成により大半が未調査のまま消滅し、詳細は不明である。

奈良時代以降にも湯崎東遺跡・久治遺跡・多田遺跡において集落が営まれており、それぞれから墨書・刻書土器が検出されている。

- ① 佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』7 1989年3月
佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』8 1990年3月
- ② 『新郷土』佐賀県文化館 1962年
- ③ 蒲原宏行・三辻利一・岡井剛・杉直樹「佐賀県出土古式須恵器の産地同定—第2報—」
『古文化談』第18集 九州古文化研究会 1987年
- ④ 佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』8 1990年3月
- ⑤ 蒲原宏行・本田秀樹「佐賀・長崎県の円墳」『古代学研究』123 古代学研究会 1990年



Fig. 2 調査地区位置図 (1/2000)

II 調査の記録

南北水路予定地を発掘調査したが、耕作土を除去すると直下に遺構面が現れた。調査区中央をほぼ南北に延びる溝と土壇を検出したが、いずれも後世の掘削を受けているものと考えられ、特に土壇についてはほとんどが浅いものである。遺物としても、弥生土器・土師器・陶磁器小片が少数検出されたのみである。

1. 遺構と遺物

SK001 調査区西端で検出された長径1.0m、短径0.7m、深さ0.35mを測る不整形土壇である。

SK012 調査区の関係で全体を確認できなかったが、検出面では南北長3.4m、東西長1.8m、深さ5cmを測る。東側は比較的浅い溝状を呈し、西側では2～3段状の掘り込みがなされている。

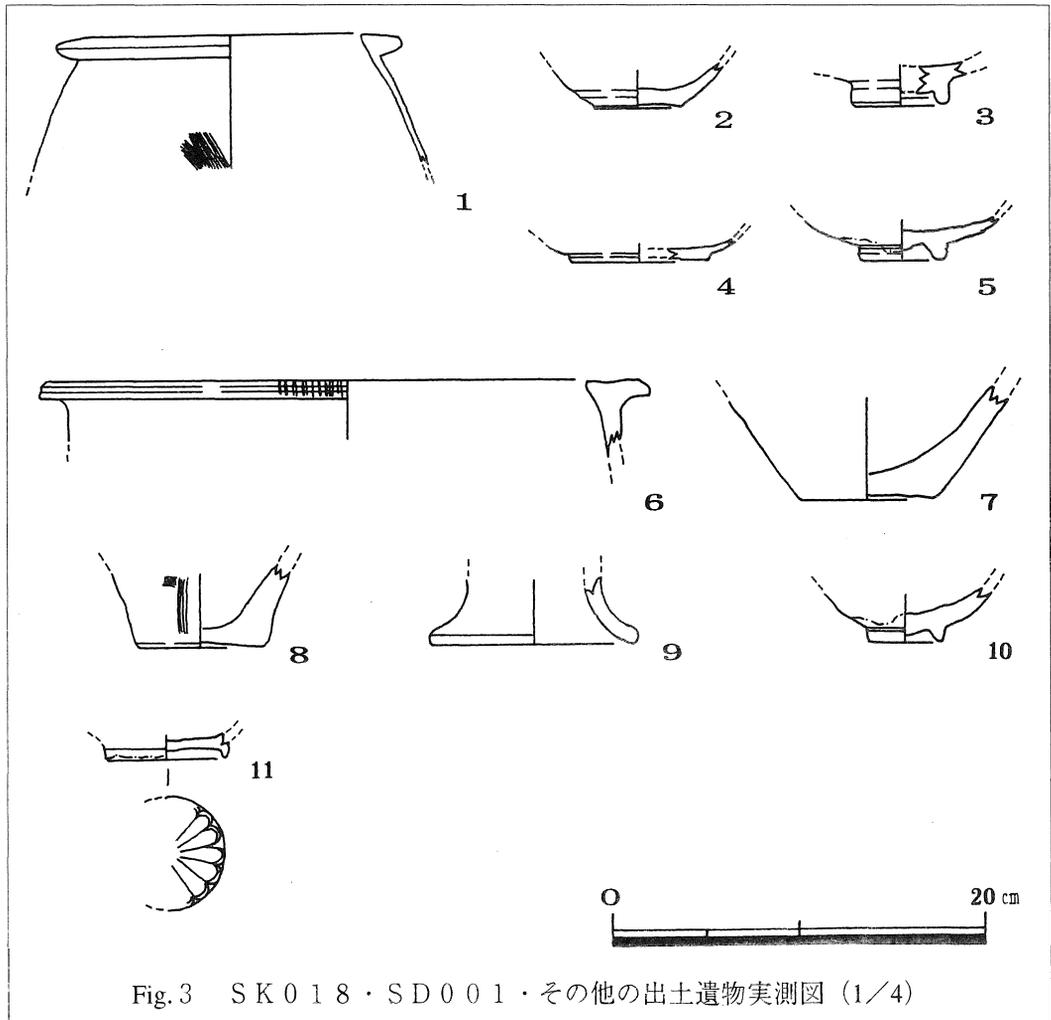


Fig. 3 SK018・SD001・その他の出土遺物実測図 (1/4)

SK018 調査区南東部で検出された瓢箪形土壙で、長さ2.1m、最大幅0.9m、深さはわずかに1～5cmである。弥生土器1片が検出された。

SD001 調査区のほぼ中央において、南西から北東方向に延びる溝である。上幅は1.7m～3.2mと一定しておらず、南西から北東へと広がる傾向にある。底面も溝の主軸とほぼ平行に二段掘りを示す部分などがあり、深さも一定していない。自然流路ではなく人工的に掘削された溝であろうが、掘削途中で放棄されたような感さえ受ける。埋土はほとんど淡茶灰色土で、部分的に地山と考えられる明黄灰色土が混在しており、人工的に埋められたと推定される。

SK018出土遺物 (Fig. 3-1) 口縁端部が三角形を示す弥生時代の甕で、復元口径18.6cm。胴部外面は斜方向ハケ目で、その他は器表が荒れており調整不明。

SD001出土遺物 (Fig. 3-2～5) 2は土師器杯で口縁部を欠失する。復元口径4.6cmで糸切底。内面は回転横ナデ調整、外面はナデ調整。3は青磁碗で復元口径5.2cm。体部と高台外面に淡青緑色の釉がかかる。4は白磁碗で復元口径7.4cm。蛇の目高台で壘付部は露胎である。淡青白色釉がかかる。5は陶器碗で復元口径4.6cm。体部内面に暗緑色釉が、外面には灰色釉がかかり全体に貫入が見られる。

2. その他の遺物 (Fig. 3-6～11)

遺構検出中に出土した遺物をまとめて記す。6は弥生時代の甕で復元口径30.6cm。口縁端部外面に二条一組の櫛書紋が施される。横ナデ調整。7は弥生時代の甕で復元底形7.0cm。ナデ調整。8は弥生時代の甕で復元底形7.2cm。内面に炭化物が付着する。内面はナデ調整、外面は縦横方向ハケ目。9は弥生時代の器台か。復元底径11.0cm。横ナデ調整。10は陶器碗で高台径4.2cm。淡緑灰色釉がかかり、内面には細かい貫入が見られる。11は白磁碗で復元高台径6.4cm。見込部に菊花文様が浮き彫りされている。

Ⅲ 小結

今回の調査で確認された遺構としては土壙と溝があるが、土壙についてはいずれもその深さは浅く、また遺物としてもわずかにSK018から検出された弥生土器1片にすぎない。溝についても確認された範囲では、溝としての機能を有していたとは考えがたいような状況である。埋没した時期については、埋土からすると近世以降に一度に埋められたようである。

このように遺跡の時期や性格については不明な点が多いが、近世以降の農村集落の周辺部にあたるものかと考えられる。主に表土中から弥生時代中期から後期の土器も出土しているが、これは他所からの流れ込みと思われる。このような事実から、鳥ノ巣遺跡周辺の開発は、近世以降と考えられる。

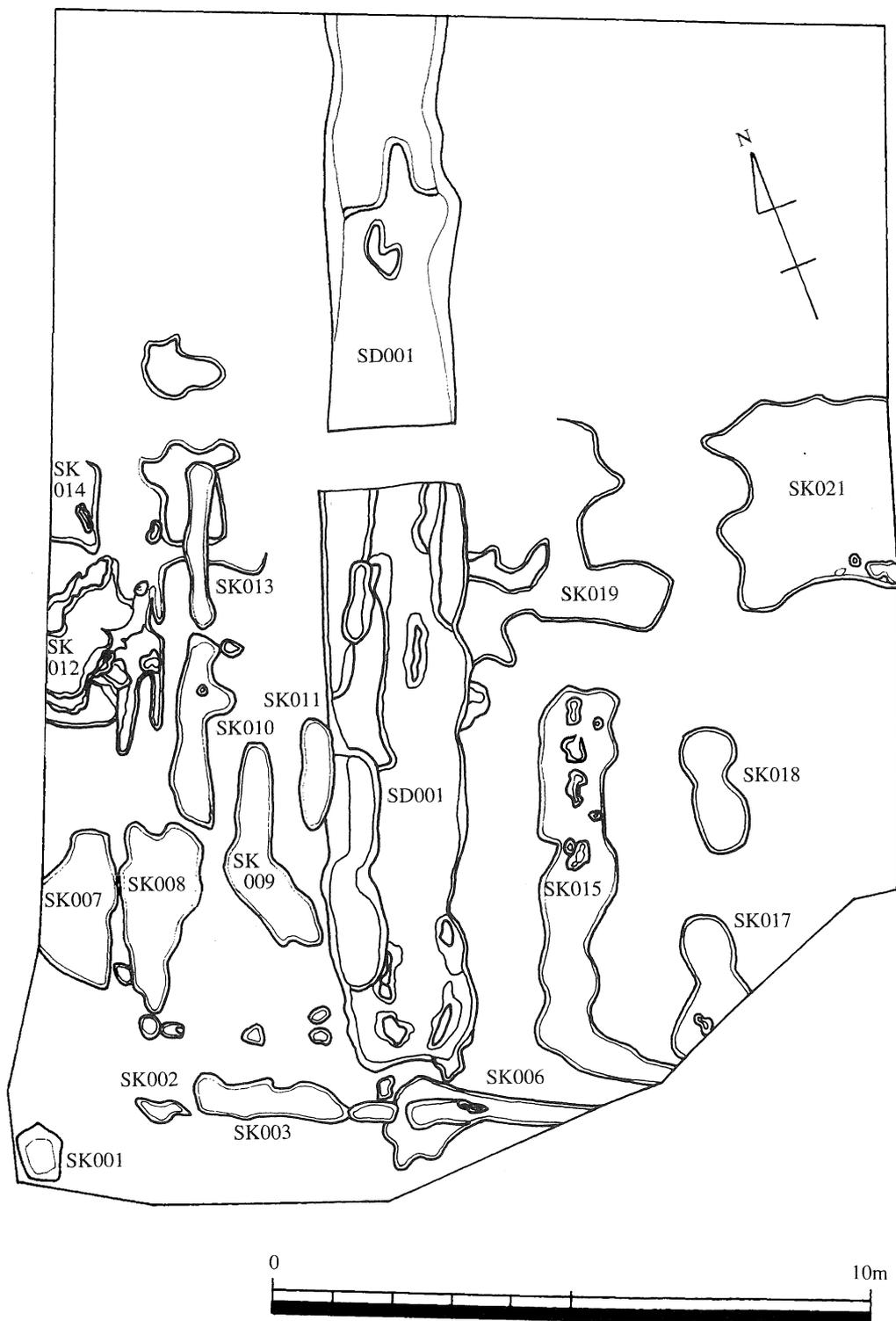
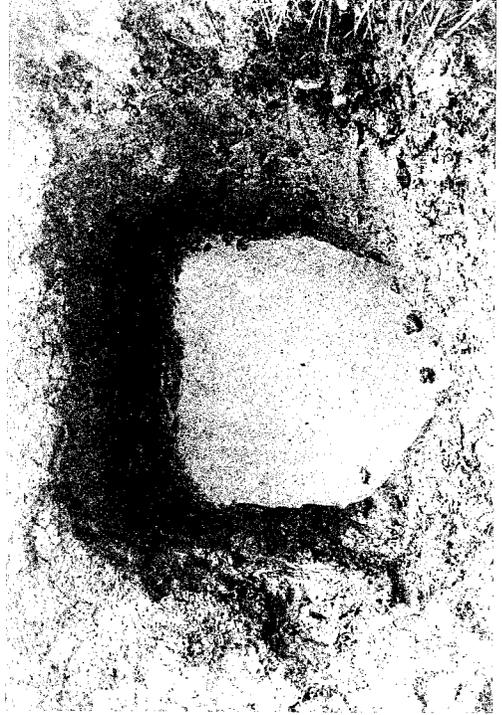


Fig.4 遺構配置図 (1/100)

圖 版



1 SD001 (南から)



2 SK001



3 SK012 (南から)



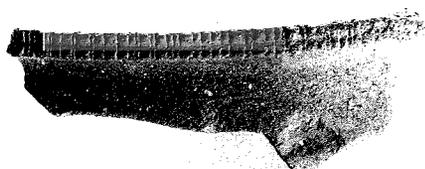
1



2



3



4



5



6

1 SK018 (3-1)

2 SD001 (3-4)

3 SD001 (3-5)

4 表土中 (3-6)

5 表土中 (3-8)

6 表土中 (3-11)

白石町文化財調査報告書第2集

鳥ノ巢遺跡

平成4年3月

発行 白石町教育委員会
佐賀県杵島郡白石町大字福田1809-1

印刷 岸川印刷
佐賀県杵島郡白石町大字福田1568-9

